

(別添 4)

【愛知県豊橋市】

1人1台端末の利活用に係る計画

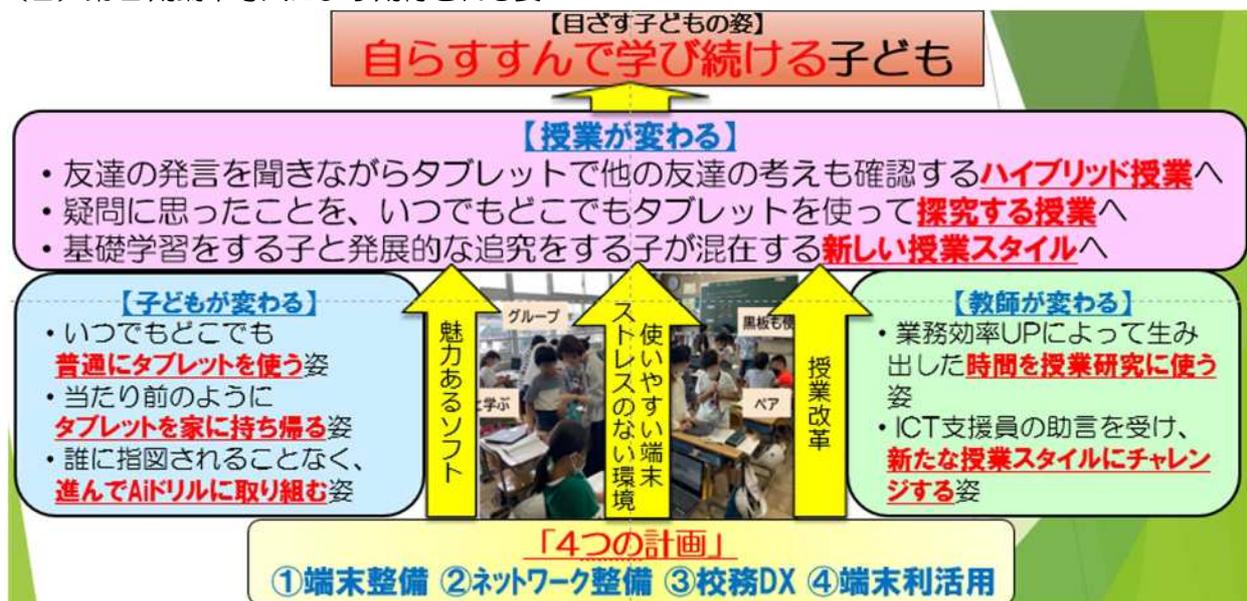
1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

(1) 第2期とよはし版GIGAスクール構想の目標

- 「自らすすんで学び続ける子どもの育成」～1人1台端末を道具として活用する活動を通して～
- 「自らすすんで学び続ける」ために → 魅力あるソフトの導入、授業改革
 - 「道具として活用する」ために → 使いやすい端末、ストレスのないネット環境

授業改革が進むように、現在の授業支援ソフトを新しいものに変更し、個の学びを追求できるようにしていきたい。また個の学びを追求できるような授業スタイルをイメージできるように、そのソフトの活用や授業改革についての研修会を開催する。

(2) 第2期端末導入により期待される姿



2. GIGA 第1期の総括

ICT機器を活用できるように、努力をする教師が多くなった。しかし、話し合いなどの協働学習が個の学びを深められるような授業スタイルとなっているかは疑問である。未だに、一斉指導を行う授業もみられる。アナログとデジタルの使い分け、低学年と高学年での能力の差など、9か年を見据えた計画などの作成を検討している。

環境面では、タブレット端末の破損機が多く、教師側のタブレット端末の不足の声が上がっているため、早期の次期端末導入と環境全体を見直していく必要がある。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

- ・ ICT研修を受講する教員数は年々上がってはいるが、全体としてみると100%とはなっていない。必須の研修などを設け、活用に前向きになれるような講座を開催していきたい。
- ・ ICT支援員の人数についても75校ある中で4名しかいないため、徐々に増やしていく計画である。
- ・ 1人1台端末を週3回以上活用する学校・学級数は年々増加している。
- ・ デジタル教科書も、教師用は多くの教科で活用するようになってきた。しかし、学習者用については教科が限られているため、活用は限定的となっている。

(2) 個別最適・協働的な学び

- 調べ学習を週3回以上活用しているかは不明である。今後調査していきたい。
- Aiドリルなどの活用については、学校や学級によって偏りが出ている。

(3) 学びの保障

- 不登校児童生徒は希望があれば端末を持ち帰り、Teamsで授業に参加できる。
- 教育相談については、Teamsを使ってできる環境となっているが、利用はほとんどない。
- 外国人児童生徒に対する端末の確保はできているが、それを効果的に活用できている場面は限定的で、活用の仕方等を広めていきたい。
- 障害のある児童へのICTを活用した支援として、市立の特別支援学校において効果的なソフトウェアを活用し、検証を行い、市内に広めようとしている。